

第65回中国・四国地区高等学校PTA連合会岡山大会開催、報告

大会テーマ **集まれば ころはれれば 晴れの国**
～「集まる」「話す」の大切さ再発見～

7月14日（金）、岡山県倉敷市民会館ホールにおいて岡山大会が開催され、中国・四国より約1200名、香川県からは34校、67名が参加しました。

開会行事の後、紀行作家で一級建築士の稲葉なおと氏から、「倉敷から始める親子旅」と題して講演がありました。写真集『津山 美しい建築の街』や長編小説『ホシノカケラ』など岡山県を舞台・題材とした数多くの作品や著作を発表されるなど、岡山に対する熱い思いが伝わる講演会でした。紀行作家らしく、倉敷市内や岡山県内に数多く残る建物を中心に、世界の21軒の名建築を巡る旅の魅力や味わい方などについて詳しくお話いただき、実際に現地を訪れているかのような感動を味わえました。また、高校生の心を動かす旅の豆知識をふんだんに盛り込まれ、高校生の子どもを持つ保護者にとって子どもたちとも関わり方やコミュニケーションの取り方の参考にもなる有意義な講演会でした。

午後の部では、まず地元倉敷市内の3校の高校生による課題解決型学習（PBL）の発表がありました。『古城池タイム（KT）』と呼ばれる総合的な探究の時間に、子ども食堂やみずしま財団など地域と連携した探究活動に取り組む倉敷古城池高校、1年次の「探Qの時間」に地域や社会の課題を発見し、その解決に向け主体的に取り組む態度や探究的な見方・考え方を養い、2年次からは実際に地域のPRや活性化に寄与する活動に取り組む倉敷商業高校、800年の歴史を誇る白石踊の保存・継承に取り組む活動や全国で初めて正課に取り入れた茶道教育の伝統を生かし岡山県産抹茶の製造・販売に取り組む倉敷翠松高校の3校が、仲間たちと協力しながら素晴らしい発表を行いました。

研究協議では、発表した3校がそれぞれ、コロナ禍を乗り越えるためのPTAの新たな挑戦や学校との連携に取り組むPTAの活動を中心に発表されました。まず、広島県立広島皆実高等学校による「仲間と共に「不撓不屈」で乗り越えろ!! ～コロナ禍 学校とPTAの初挑戦の軌跡～」の発表では、全国的に学校行事が中止となる中、学校の一大行事である大運動会を開催するだけでなく、保護者にその様子を見てもらうためにプロの業者の協力を得て撮影・編集を行い、ネット配信を行うという新たな活動へのチャレンジが紹介されました。



会場では地元高校生たちが物品販売で大活躍

続いて、徳島県立吉野川高等学校からは、「地域に愛される学校 ともに挑んだ10年 ～再編統合から10周年を迎えて～」と題して発表がありました。学校の統廃合時におけるPTAの併合については、その8年前から話し合いが始まり、先生方の協議結果をPTA役員と共有しながら準備を進めてきたことや、文化祭でのバザーや研修会等を重ねるうちに打ち解け理解し合えたことなど、統廃合校ならではのご苦労が紹介されました。

最後に、岡山県立倉敷南高等学校による「運営の充実と協力体制により、学校の学びを支える ～キャリアの学び・グロー



開会行事 菊地会長の挨拶



稲葉なおと氏の講演

バルな学び～」の発表では、コロナ禍の行事の見直しや感染症対策、オンライン配信などPTAの真価を発揮してきたことや、キャリア教育においては地元の企業や施設と連携してその充実に貢献したり、グローバル



次期開催の高知県による 高知大会のPR

教育でもニュージーランドの高校との相互訪問の企画や支援もPTAが行っていることなどが紹介されました。それぞれの発表は、学校の実情などに違いがあるものの、大会テーマが掲げた「集まる」「話す」ことが、コロナを乗り越え、PTA活動に新たな希望の光や進歩をもたらしていくと訴える点で共通しており、大変有意義な研究協議となりました。

閉会行事では、菊地潤大会実行委員長の挨拶の後、次期開催県である高知県高P連佐竹大樹会長をはじめ高知県の方々による、趣向を凝らした高知大会の紹介や歓迎の挨拶があり、大盛況のうちに大会が終了しました

